

次期大司教選任に向けての 教皇大使ミサと集いのご案内



モリーナ
教皇大使

- ・日時：10月10日(土)ミサと集い
10:30～説明を含むミサ(どなたでも参加可)
10月11日(日)集い(代表者のみ)
- ・場所：(ミサ) 大阪高松カテドラル 聖マリア大聖堂
(集い) 司教館1階会議室

7月28日16時27分、マグニチュード7.1の「令和8年熊本地震」が発生し、熊本県宇城市と八代郡氷川町では最大震度7を記録した。発災直後から福岡教区では、熊本地区の司祭・修道院への連絡を開始し、被害状況の把握に努めた。翌29日には、ヨゼフ・アベイヤ司教が現地を訪問し、教会施設や地域の被災状況を直接確認した。

アベイヤ司教は、まず熊本市内の手取教会を訪問した後、被害の大きかった八代教会とシャルトル聖パウロ修道女会八代修道院を訪問した。道中の氷川町、宇土市、宇城市では、倒壊した家屋、陥没した道路、停電により機能しない信号機など、地震の爪痕が随所に見られた。緊急車両も絶えず行き交い、地域全体が緊急対応に追われている状況であった。

八代教会では、聖堂の床が中央部分で盛り上がり、両端が沈むなど、深刻な損傷が確認された。床には大きな亀裂が走り、信徒会館では食器類が散乱していた。司祭館でも家具が倒れたままの状態となっていた。また、停電と断水が続き、トイレも使用できない状況であった。一方、修道院では井戸水を利用することができたため水は確保されていたものの、ガスが止まり、シャワーも水のみという状況であった(7月29日現在)。

7月30日、福岡教区はカリタスジャパン(一)および緊急対応支援チーム(CJ-ERST)とオンラインによる緊急会議を開催し、被害状況を共有するとともに、今後の支援方針について協議した。8月2日には福岡カリタス対策会議を開催し、物資支援の状況や教会の復旧状況を確認した。八代教会では電気が復旧したものの断水が続いており、多くの信徒が家屋の損壊や避難生活を余儀なくされていることも報告された。

福岡教区では、司教館内に「支援室(仮称)」を設置し、募金の管理や問い合わせへの対応など、被災地を支援するための体制を整えた。併せて、支援に関する専用メールアドレスの準備も進めた。

アベイヤ司教は、教区ホームページを通じてメッセージを発表し、亡くなられた方々のために祈り、遺族に心からの悔やみを述べるとともに、被害を受けた方々に寄り添い、できる限りの支援を続けていく決意を示した。また、カリタスジャパンと連携しながら被災地のニーズを把握し、具体的な支援計画を進めるとともに、広く募金への協力を呼びかけた。

8月16日(日)、八代教会主任司祭ブランビッラス・カ・フェルッチョ神父は、シャルトル聖パウロ修道女会八代修道院において、八代教会のミサを再開した。震災後初めてのミサであったことから、アベイヤ司教が司式し、ミサ後には福岡教区の今後の方針について信徒に説明するとともに、互いに近況を分かち合い、交流する時間を持った。

被害を受けられた方々に 寄り添い続ける

ヨゼフ・アベイヤ司教(福岡教区)

熊本地震被害状況報告



亀裂の入った床(八代教会聖堂)



崩れた社殿(八代城跡)

教区納骨者および死者
祈念ミサ(大阪)
11月3日(火・祝)11時
司式：酒井俊弘補佐司教
大阪高松カテドラル 聖マリア大聖堂

合同追悼ミサ(四国)
11月3日(火・祝)11時
司式：松浦信行神父
カトリック桜町教会納骨堂
(ミサ後) 姥ヶ池墓地墓参

カトリック福岡教区 熊本地震関連サイト 【募金・ボランティア】



QRコード
読取り

大阪高松大司教区 典礼研修会
典礼のころ ミサの準備と侍者の役割
2026/10/24(土曜日) 13時半～15時半ころ
サクラファミリア(大阪梅田教会)
主催/指導：教区典礼委員会

- ・講話/一部実習有
- ・事前申込不要
- ・ご受講年齢不問

・研修会は土曜日に実施されます。
・今回の研修会は ネット配信や録画公開を予定していません

INTERNATIONAL DAY 2026
No Parking
駐車場はありません

大阪高松カテドラル 聖マリア大聖堂
St. Mary's Cathedral
10.18 SUN
12:30~16:00

外国人が暮らしやすい社会は日本人にも暮らしやすい
A society where foreign residents can live easily is also a society where Japanese people can live easily.

第17回 カトリック教員養成会

カトリック校の使命・教員として 何ができるのか

8月12・13日、サクラファミリアにて第17回カトリック学校教員養成会が開催された。カトリック校の使命・教員として何ができるかをテーマに、講話と分かち合いを通して、カトリック校における教育のあり方を考えた。本研修には、小学校から高等学校までの16校25人の教員が参加した。

NPO法人EduK理事
長の前川和裕さんは「なぜ教師になりたいのか」という問いを軸に、子どもが「自分は大切にされている」と感じられる教育の重要性を語った。AIは知識を教えられても人を愛することはできないとして、教員には子どもに寄り添い、信じ続ける「通訳者」、「伴走者」、「証人」としての姿勢が求められると述べた。



修了式と分かち合い

た経験が、困難を乗り越える力につながったと振り返った。いつもそばにいて共に過ごしてくれたことが大きな支えになると語った。

元香里ヌヴェール学院校長の西村佳也さんは、カトリック的アプローチを大切にしながら、それを子どもの成長の栄養として生かすことと捉え直した経験を紹介。祈りを「時間のかかる神様との話し合い」と捉え、今いる場所で何ができるのか問い続けることの大切

さを示した。

分かち合いでは、一人ひとりと向き合うこと、人間教育を大切にする、カトリック校の精神を日々の教育に生かすことなどが語られた。研修を通して、目の前の一人ひとりをかけがえのない存在として受け止め、成長に寄り添うことが、カトリック校の使命であることを確認した。

(文) ヴェリタス城星学園高等学校教員
後藤七海

第8回「性虐待被害者のための 祈りとつぐない」の日に向けて

祈りの集い

日時：2026年10月12日(月・祝)

14:00～15:00

場所：カトリック桜町聖堂

(高松市桜町1-8-9/TEL:087-831-7455)

祈り：テゼと聖書による祈り

テゼの祈りは、短く覚えやすい祈りの歌を、何回も繰り返すことによって、心の奥にしみこむ祈り、体全体の祈り、人びとをつなぐ祈りとなっていきます。

主催：カトリック大阪高松大司教区
ハラスメント対応委員会

問合せ：教区本部事務局(06-6941-9700)



愛をつなげるぶどうの木

ぶどうの木が枝をつなぎ
合わせて実を結ぶように、
私たちも神さまとつながり、互いに愛を分け合うことが大切です。だからこの3日間、「一人じゃない」という安心感と人とながら喜びを子どもたちに一番感じてほしいと思いました。

テーマソングには童謡「にじ」を選びました。雨の日のような不安や寂しさがあっても、誰かが寄り添い言葉をかけてくれることで心が晴れていく。そんな人と人との愛のつながりを感じてほしかったからです。

最初は緊張していた子ども、共に過ごし手を取り合

う中で、自分が神さまから愛されている大切な存在であり、隣にいる友だちもかけがえのない存在だと感じ取ってくれました。班での分かち合いでは「友だちと出会えて仲良くなった」「優しくしてもらえた」と、出会いの中で見つけた自分だけの「にじ」を教えてくださいました。その輝きは、誰かがそばにいてくれたからこそ生まれた特別なプレゼントです。最後のメッセージ交換でも勇気を出して「ありがとう」を届け合い、一人ひとりが誰かの「にじ」となつて愛の実を实らせてくれました。

ミサの終わりに手を繋ぎ、肩を組んで「にじ」を歌ったあの温もりと温かい言葉たちが、これからも子どもたちの歩む道を明るく照らし続けることを願っています。

(文) 青年と子どもの錬成会
実行委員長 田中愛弥

青年と子どもの錬成会

8月9日～11日まで大阪信愛学院小学校で、青年と子どもの錬成会が開催された。今年は「愛をつなげるぶどうの木」をテーマに掲げた。

広島・平和学習

8月5日・6日の両日、助祭2人と神学生3人の計5人で、広島を訪れ、平和学習の機会を持った。



5人のうち3人はベトナムを母国としており、広島・長崎で起こった原爆の悲劇について学び、戦争がもたらした苦しみや悲しみを知る機会として、今回の訪問に参加しました。

滞在中は、広島司教区が主催する「2026年平和祈りミサ」に参加し、「平和祈りの集い」「原爆・すべての戦争犠牲者のためのミサ」にあずかりました。ま



平和祈願ミサ



白浜満司教と談話

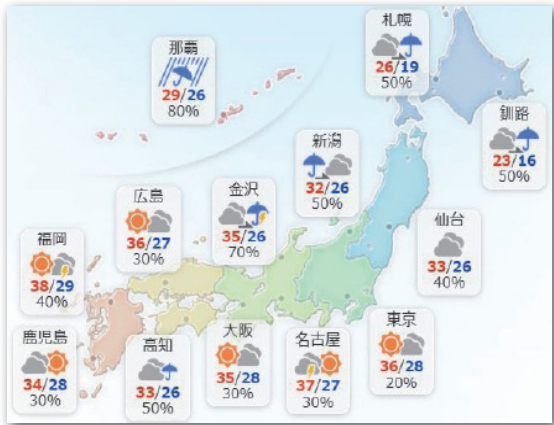
た、平和記念公園内の原爆資料館も訪れ、原爆によってもたらされた被害の実相に触れ、戦争によって尊い命が奪われ、人々の生活や人生が深く傷つけられたことを学びました。

今回の広島での平和学習は、単に歴史を学ぶだけでなく、苦しみや悲しみを経験した人々の思いに心を寄せ、「平和とは

何か」「教会は平和のために何をすべきか」を考える貴重な機会となりました。特に、これから司祭・助祭として人々に寄り添い、司牧に携わっていく5人にとって、今回の経験は大きな学びとなり、それぞれの信仰と司牧の歩みの中で、平和を願い、平和を築く者として歩んでいくための大切な経験となりました。

(文) 神学生養成召命委員会





北海道の隣りに表示されている沖縄

わたしたちの生きる世界は 今 日常を見つめ直す

(サブタイトル：2026年平和旬間日本カトリック司教協議会会長談話より引用)

30年ほど前に玉造教会を訪問した時、小学生に「沖縄って北海道のそばでしょー!」と言われて困惑しました。ふと気が付いたのが、テレビで見る天気予報です。なるほど、それを毎日見ていたら、どのように認識するのでしょうか。しかし、載っていればまだ良い方で、奄美諸島や沖縄県全体(カトリック那覇教区)が載っていない「日本地図」も多く目にします。それを見ている人は沖縄がどこにあるか認識しているのでしょうか? 沖縄がどこにあるかさ意識しな

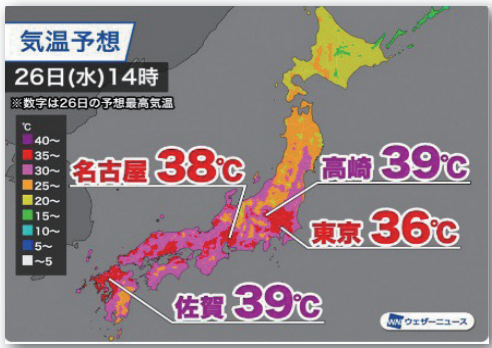
が飛び立っていく。特に沖縄で生活している人たちにとって、上空を戦闘機が轟音をたてて行きかき、耳をつんざく日常。沖縄が背負ってきた歴史、今も私たちには想像もつかない出来事や知らされていない、気づかない沖縄がある。その現実の一端と心情を、那覇教区の信徒・山田圭吾さんに綴っていただいた。



沖縄と日本

平和月間は終わった。しかし、世界では今も争い、武器の製造と輸出入が当たり前のように行われ、今日も多くの尊いいのちが奪われている。日本に目を向ければ、米軍基地は日米地位協定によって各所に配備され、私たちの生活に入り込み、世界で戦争が起これば、各基地から戦場へと戦闘機が飛び立っていく。状況にあるのか、気にしていないのではないかと危惧しています。「南国」のイメージからか「沖縄の土人はどこで見られますか」と言われたり、チェーン店ばかりで、沖縄らしさがなく、と憤っている観光客もおられます。しかし、その空も、海も、陸もすべてが軍事優先の、日本で一番危険な地域であり、そこに生まれ育った沖縄の人たちが連日恐怖の中で生活している実態があるのです。沖縄における米軍基地の存在とそれに関連する事件・事故についてどれほどの関心を寄せておられるでしょうか。日本は世界一治安の良い国だとも言われますが、その日本に沖縄は含まれていないのでしょうか。

「らい予防法」によって家族や地域から排除され人里離れた療養所に隔離された状況は「見られない、気づかれない」ことになり、存在さえも忘れられ、そこで何があったのかさえも知られていませんでした。精神疾患のため私宅監置制度によって座敷牢や監置小屋に隔離され忘れられた人がいたことなども、国による



沖縄が表示されていない気温予想

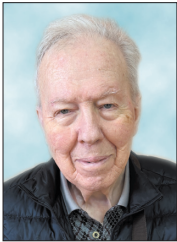
には来たくなかった。沖縄からB29爆撃機が飛んできて爆弾を落とし、私の親戚を殺しました。沖縄はどんなに怖い島かと思つてました。と言われ愕然としたことがありました。私の育った愛する沖縄が、他国に比べて「悪魔の島」だと呼ばれていたことは、自分たちから望んで軍事基地を引き受けたわけでもないのになぜ? との思いになりました。「二つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しむ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたがたはキリストの体であり、また一人一人はその部分です」(聖書)とあります。

「共に喜びをもつて生きる」(NICE2) ことができるようになるばと願います。

(那覇教区 山田圭吾)

訃報

ロベルト・グーセンス神父(淳心会)は、8月15日、仁豊野ヴィラで老衰のため帰天。97歳。1928年12月23日生まれ、ベルギー出身。



1954年9月12日司祭叙階。65年来日。来日後、長崎司教区の小神学校で教鞭を握る。60、66年、大阪大司教区では小神学校の校長を務め、その後、姫路教会、堺教会、金剛教会にて司牧。73年、社会福祉法人

カトリック桜町教会 チャリティーコンサート



8月2日、桜町教会聖堂にて赤枝サンテソ留果(ルカ)君のコンサートを開催できました。これもひとえに桜町教会の司祭、評議会、信徒の皆様のご支援のおかげと深く感謝申し上げます。また、徳島教会から駆けつけてくださった10人のボランティアスタッフも、本当にありがとうございました。当日は各オルガン協会関係者やプロテスタント教会の教職者、未信者の方々も大勢集ってくださいました。中には「未信者ですが教会へ行ってもいいですか?」との問い合わせもありました。開演前には桜町教会の議長から教会の歴史や建物のことが紹介され、担当の松浦信行神父から「このコンサートが世界平和への祈りとなり、未来への希望となる音楽の力を発信してくださる」という温かく謙遜な開演メッセージをいただきました。ドイツ製オルガンに合ったルカ君の選曲からは、静かで荘厳な聖堂でしか聴けない響きを最後の一言まで味わうことができました。12年前の夏、徳島教会で出会った12歳のルカ君は世界で活躍する奏者となり、「静かに集中して聴いてくださり本当に嬉しい。徳島で練習させていただいたご恩返しが少しでもできたなら」と語ってくれ、当時の徳島教会担当イスマエル司祭から「世界中のカテドラルで響き渡るオルガンの音は神への感謝が込められている。大勢の心が落ち着いたことでしょう」と感謝のお言葉を、酒井俊弘補佐司教様からも粹で心のこもったメッセージをいただきました。オルガンを愛しメンテナンスに献金くださった皆さまに心より感謝申し上げます。神に感謝!

(文 カトリック徳島教会 桑原稔実)

大阪高松教区司祭

ミカエル 池田雄一 神父



池田雄一神父は9月11日、あさひ病院(兵庫県明石市)で弓部大動脈瘤切迫破裂のため帰天。85歳。1941年4月23日生まれ、兵庫県出身。

1971年7月5日司祭叙階。以後、住吉教会、堺教会、園田教会、垂水教会、津守教会などで司牧。また、

暁光会大阪支部付として活動するとともに、日本カトリック神学院で奉仕。三重県にある「アガベの家」では、苦しみの中にある人々とともに農業をしながら生活を共にした。東日本大震災では現地に入り、大船渡ベースの初代ベース長を務めるとともに、仙台教区(築館教会)でも司牧。その後、大阪高松教区に戻り、アガベの家に居住しながら、2014年からは阿倍野ブロック津守分教会の協力司祭を務めた。

平和旬間・月間 2026 大阪高松大司教区

私は平和の道具

I am an Instrument of Peace

思い出し Remembering

ともに歩み Walking Together

守る and Protecting

先月号では、「平和月間行事」を7月に実施した地区・小教区の報告を主に報告させていただきました。今月号では主に8月に実施した教会からの報告をご紹介します。

「平和月間行事」講評 大阪高松大司教区大司教 トマス・アクィナス前田万葉枢機卿

今年の広島と長崎の平和行事後に、駐日教皇大使から尋ねられました。「大阪高松教区も平和行事をやっていますか？」と。

わたしは、「以前は、平和旬間に教区行事として司教座聖堂でやっていましたが、10年ほど前から各地区各小教区でそれぞれやって、お互いに参加し合うようにいたしました。しかしまた昨年からは、10日間では物足りないから、平和月間として、毎年7月と8月の間にそれぞれ実行してお互いに参加し合うことにいたしました」と答えました。大使も大変感心しておられました。

今年は、「私は平和の道具」という標語で2か月間、大阪、兵庫、和歌山、香川、徳島、愛媛、高知の各県小教区あるいは地区単位で意義深い平和祈願行事を繰り広げてまいりました。私も2か所で平和行事に参加しましたが、「原爆日 被爆二世の恨み節」を説き、しかし、宗教者ですから、「原爆日 被爆二世の平和論」で結びました。

《姫路地区》

◆東ブロック（加古川教会・西脇分教会）

8/9（日）平和祈願ミサ（司式：カレンガ神父）

午前：加古川教会 午後：西脇分教会
ベトナムやフィリピンの方も一緒に参加し、両教会で参加者は235人となった。期間中、信徒の叫び「平和への祈り」メッセージカードを作成し、子どもたちが奉納。共同祈願は子どもたちとベトナムの方が唱えた。

平和旬間行事は「平和を希求し、平和の大切さを伝えていくための大切な教会の柱」だが、外国人の参加について困難さを感じた。



◆仁豊野教会

8/2（日）ミサ後、映画『アンゼラスの鐘』鑑賞会：悲惨な原爆の被害や絶望的な状況の中でも絶えることのない「再生とふっこうへの希望」や助け合い、祈りを捧げる人々の姿に感動した。上映後は、戦中・戦後の食糧難時代を思い出す手作りの「すいとん」が振る舞われ、次世代を担う子どもたちと共に、今の豊かな生活への感謝をかみしめた。世代や国籍を越えて絆を深め、平和の担い手として歩む決意をする実り豊かな行事となった。



◆姫路教会

8/8（土）広島巡礼バス旅行（26名参加）幟町教会・世界平和祈念聖堂で平和祈願ミサを捧げ、75時間の祈りにも参加した。広島平和記念公園では、静かに祈るひと時を持った。「平和を宣言する人ではなく、平和を実現する人は幸いである」という司祭の説教の言葉が心に響いた。今後は「私の召命」として平和のために生きることを決意し、巡礼の旅に心から感謝。

8/9（日）平和祈願ミサで平和への祈りやメッセージを奉納。子どもたちはサマーキャンプでリーダー

と平和について学習をした。国籍や年齢を越えて学習できたことに感謝。二度

と戦争をしないためには、日本が戦争をしていたという事実を知ることが大切だと思った。



《神戸地区》

◆たかとり教会

7/19（日）「ボートピープルと人権」の上映会。昨年、インドシナ難民受け入れ50周年の感謝祭が東京で行われた時に上映された映画で、ボートピープルの亡命中の映像が流れた。当事者は、当時の状況を見て、よく亡命できたと驚いたり、亡命中に娘を失い水葬した辛い体験を話す人もいた。ベトナムにルーツがある子どもたちになぜ自分がここにいるのかを知ってほしかった。戦争がもたらす悲惨さを改めて感じた。私の平和ではなく、キリストの平和が一人一人に染みわたりますように。



◆洲本教会

8/9（日）平和祈願ミサで、多言語での共同祈願。これまでは、「体験者の話を聞く」ことが多かったが、今年は参加型イベントにしたいと考えた。色々な国の歌と一緒に歌ったり、楽器演奏を聴いたり、グイノ神父のマジックショーもあり、おとなも子どもも楽しめて、いろいろな国の人と友達になれた。それが平和の礎を築くことにつながると感じた。



◆住吉教会

「ともに考える平和」のテーマで個人の「祈りのカード」を展示・公開し、全体で共有することで心をつなげて「ともに」祈り、平和についての「分かち合い」では心の内にある「思い」や「体験」を共有し、「身近なところから広げていく平和」について「ともに」考えることができた。写真は、平和祈願ミサで捧げられた「祈りのカード」（右）と教会学校の生徒が作成した「祈りのカード」（左）来年度の企画についても積極的な意見が出て、良い企画だった。



◆神戸中央教会

8/2（日）アニメ「つるにのって」鑑賞会後、中学生から「原爆の話は聞いていたが、絶対にアカンと思った」と感想があった。日本で殺傷兵器の輸出解禁になったり、このアニメが作られた頃よりも戦争の危機が迫っているように感じる。平和を願って祈りたい、何とかしなければという思いからの平和メッセージカードもたくさん集まった。



◆三田教会

8/9（日）平和祈願ミサ（司式：神田 裕神父）平和についての講話、「平和の祈り」を唱えた。*DVD 紙芝居「長崎で原爆にあって」（松井 清さんの話）*被爆体験詩人の峠三吉の『原爆詩集』の「仮帯所にて」の朗読。「長崎原爆の日」にあたり、原爆投下時刻に黙祷を行なった。原爆二世の会の活動状況などを初めて知って良かった。



◆北須磨教会

8/16（日）ミサ後、ピースボート乗船報告会：ピースボート（平和の船）で世界一周した夫妻の報告。ただ平和を祈るだけではなく、小さなことから実行する「行動を伴う信仰」の大切さ、様々な国・地方の叫びに目をそらさず耳を澄ませて心を寄せることの大切さを感じた。アシジの聖フランシスコの「平和を願う祈り」の書写コーナーも予想外に好評だった。



◆鈴蘭台教会

8/16（日）11時～講演会「宗教と民主主義の対立に脅かされるコンゴ民主共和国」講師：マタタ神父
マタタ神父の講演会では、コンゴ民主共和国の豊かな鉱物資源に対して他国が絡む利権争いが起こり、多くの犠牲者を出している状況等をスライドを使い2時間近く話された。また、ミサは喜びに満ち溢れ、踊りながら行列ができることをお聞きした。日本の平和を維持することの大切さを感じた。



◆六甲教会

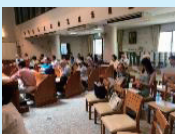
8/29（土）19時～20時「平和を祈るテゼの集い」
於：六甲教会主聖堂 参加人数は100名。
テゼの歌を繰り返し歌い、聖書を黙想し、共同祈願でともに祈ることを通して、祈りの世界に心を沈めていただくことを願っている。心を合わせて世界平和のために祈った。当教会の聖歌隊の協力で、美しいハーモニーが教会内に響き渡った。
参加者の感想：世界平和のために他者と一緒に祈ることはなかなかないので、とても良い機会となった。楽器演奏と聖歌隊の歌唱、そして参加者の歌声のハーモニーが美しかった。

《阪神地区》

◆**芦屋教会** 7/12 (日) 映画会「荒野に希望の灯をともし」:一人の医師が35年をかけて、争いを力や武力ではなく心を込めて取り込む姿に、絶望から希望に変わる民族の歩みを目の当たりにした。ピースツリー:カードに平和への思いを書いたき、教会のフェンスに掲示した。



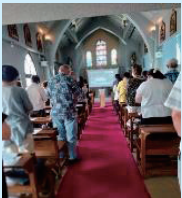
◆**武庫之荘教会** 7/26 (日) 平和祈願ミサ後、「日本国憲法と分かち合い」を実施。「国際法を作り、私たちの子どもが戦争に行くことがないように、徴兵制がないように祈っている」「自衛隊が闘う部隊になって大丈夫なのか」「平和を守るためには戦うことも必要ではないか?」等の意見があり、平和を守るために、キリスト者として何ができるかについて考える機会になった。



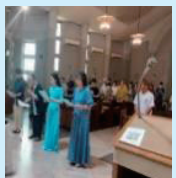
◆**尼崎教会** 8/9 (日) 平和祈願コンサート:英語ミサグループの人たちが4曲を披露くださり、別の信徒の「アヴェ・マリア」の独唱もあった。また、日曜学校の生徒たちによる「平和」に関する絵の展示は、彼らの純粋な平和への思いや地球の環境保護への思いが伝わってくるもので、多くの人が共感した。日本では「終戦記念日」に近いこの時期、信徒一同が心を一つにして世界平和を祈願することは大変有意義なことだと思った。



◆**甲子園教会** 8/9 (日) 長崎原爆忌にあたり、ミサ後、皆でオンラインで式典に参加。平和とは何かを考えて分かち合う場にできた。長崎の弔鐘と教会の鐘がシンクロして鳴った瞬間は大変素晴らしかった。長崎市長や被爆者代表の言葉が胸に詰まる思いがした。無関心になるのではなく、声をあげ続けることが大切であると痛感した。



◆**仁川教会** 8/9 (日) 平和祈願ミサで民族衣装を着たベトナムの女性の共同祈願で、国の違いをこえて共に歩む共同体の姿を感じた。7月初めから皆さんに書いていただいた祈りの短冊をオリーブの枝に吊るして、聖堂内に飾った。日本語、英語、ベトナム語、インドネシア語という多言語での平和への祈りが揺れていた。これからの教会の姿を象徴するように。



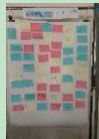
◆**宝塚教会** 8/30 (日) 平和祈願ミサ後、平和祈念講演会「被爆2世として思うこと」講師:李 聖一神父(イエズス会士)広島市民としてご家族が体験された原爆の実情についてお話いただくと共に、当時の広島のカトリック関係者がキリスト者としてどのように働かれたかなどの歴史的事実も知った。今後、私たちがキリスト者としてどのように生きるべきかも考える貴重な機会となった。



◆**園田教会** 8/23 (日) 平和祈願ミサ後に、『THE KING OF KINGS』を鑑賞し、平和について考えた。英語版のため、事前に要約プリント(日本語とベトナム語)を配布した。聖書に基づく物語なので理解できて、イエスの生涯そのものが平和であると実感した。主任司祭が「戦争をする人も実は平和を求めている。しかし、平和を実現するために戦争をしてしまう。平和を求める方法を間違っている」と言われたことが印象的だった。

《北摂地区》

◆**池田教会** 8/9 (日)「平和について分かち合しましょう」くじで席を決めて6グループで分かち合った。平和が続くように政治や世界情勢にも無関心にならず、アンテナを張り、他人のことも考えて行動しよう。自由ではあるが、募金・署名への協力、講演会などへの参加なども考えよう。「戦争はダメ」は皆の総意だった。分かち合いの最後に、思いや感じたことを付箋に書いて模造紙に貼った。



◆**吹田教会** 8/9 (日) 平和祈願ミサ後、「平和を願ってみんなで歌おう」昨年と同様、音楽で平和を願いながら、皆さんの心が一つになるように、人のつながりを考えて選曲した。感動して涙をこぼされる方もおられ、感謝の言葉をいただいた。♪てをつなごう♪なかま「フォークミサ曲42番」♪この時、この日をひとりにならないよう♪ひとりの小さな手



◆**日生中央教会** 8/9 (日)「キリストの平和」を手話で合唱。DVD『医師 中村哲の仕事・働くということ』上映。「あなたのへいわ」を合唱。平和祈願の栞と「祈りの花束」を作成。「戦うことで平和は成し得ない。人は人のために働いて支え合い…銃をシャベルとツルハシに持ち替え」という言葉が心に残っている。心を合わせて祈りの花束をいっぱいにして良かった。



◆**茨木教会** 8/9 (日) *長崎・浦上の被爆について学ぶ、*参加者全員でロザリオの祈りをする。「自分の救いばかり求めていることに気づき、周りの人、ひいては全ての人の救いにまで思いが及んでいないのではないかと自省した」という感想が寄せられた。原爆の犠牲になったのは、日本人だけではないことも忘れてはならないとの思い。平和を創り出すことに関して、ミサに並ぶ活動はないというのが信徒の思いだとの感想があった。コロナ禍以降、一人で取り組むことが多かったのが、久しぶりに皆で一つになって祈りを唱えて嬉しかったという感想をいただいた。



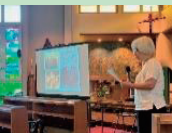
◆**千里ニュータウン教会** 8/9 (日) 平和祈願ミサ後、皆で「しあわせな方マリア」を歌った。この歌は、聖マリアに向けた言葉でありながら、神の働きとイエス様への信仰の祈りとして受けたいと司祭から言われて、この歌が好きになったという感想があった。「主の平和を生きることは、地上に平和があるように願ひ祈ること」が大切で、職場、家庭、学校、様々な共同体で実行したい。



◆**豊中教会** 8/16 (日) 平和祈願ミサで触れられた沖縄慰霊の日の「平和の詩」について、ミサ後に分かち合った。日本で沖縄だけが凄惨な地上戦にさらされた事実を考えることも重要だと考えた。2度と戦争をすることはできないと思った。アジジの聖フランシスコの「平和を求める祈り」を全員で唱え、戦争中のことや沖縄のことを分かち合い、考える機会となった。



◆**箕面教会** 8/30 (日)「平和のためにわたしたちができること」:大正・昭和期のキリスト教社会活動家で牧師の賀川豊彦の生きざまと信仰、平和を希求する姿をなぞり、事前に神戸の賀川記念館を訪ねた方の中から4名にパネラーになっていただき、平和のために何ができるかを考え、平和は単に戦争がないことではなく、身の周りで誰も孤立することがない社会になるように努めたいと思った。



《大阪北地区》

◆**枚方教会** 8/9 (日)「封印されたまなざし」(アメリカ人従軍画家が見たナガサキ)の視聴と分かち合い。世間からの非難、圧迫、排除にあっても感性に従い、核兵器に抗った人がいた。戦争の種は、私たちの足元、日常の中にある。人々と共に平和=傷つく者のない世界を創り続けるためにも、分かち合いは良い方法ではないかと思う。



◆**大東教会** 8/9 (日) DVD『ナガサキの少女少女たち』の視聴。講話:平和の絆「復元された長崎浦上の鐘」講演後は、参加者の思いを次の二つの祈りにまとめて、「聖母被昇天ミサ」の共同祈願とした。「平和の尊さを忘れてしまう私たちのエゴと弱さをお赦しください。平和とその祈りを大切に、いつも強く意識し続けることができますように」、「平和が当たり前ではないことを私たち一人ひとりが理解し、核兵器廃絶に向けての歩みを進めていくことができますように」。



◆**香里教会** 8/2 (日) 上映会『ヒロシマ—1945年8月6日 原子雲の下の実相』(1945年ベルリン国際映画祭長編映画賞受賞):本作は、原作の輸出妨害、映画会社による上映拒否、教職員の政治活動への締め付け等幾多の弾圧をはねのけ、俳優陣の尽力によって公開にこぎつけた稀少な作品。戦争準備を進める人やすべての政治家こそがこの映画を見るべきという感想があった。8/2と8/9(平和祈願ミサ)の両日パレスチナ・ガザ支援募金と障がい者自立支援事業所「クッキー工房おれんじはうす」に物販機会を提供。



◆**関目教会** 8/9 (日) ①日本遺族団によるフィリピンでの戦没者慰霊祭に参加してのお話(お父上を戦争で亡くされた方) ②長崎原爆被爆体験とその後の人生についてのお話。以前、お話を聞く企画をお願いしたが、拒まれていた。その方々が80歳を超え、時間的に猶予がなくなってきたので、何とか説得して実現にいたった。企画した側、参加された側双方で良かったと思う時となった。

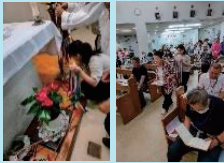


◆**大阪梅田教会** 8/9 (日) 7月から「平和の木」に実らせてきた多言語や子どもたちの平和祈願メッセージを平和祈願ミサで奉納。アニメ「戦争のつくりかた」の上映。戦争のもたらすものは大量の破壊と死、苦しみ、悲しみ、憎しみしかない。しかし今、理由をつけては戦争をしかけ、負の連鎖が止まらず、「二度と戦争をしない」と決めた日本も安心できない状況。このアニメで、「戦争は人間の意志で作られる」ことがわかり、その意志で「平和」を作ることでもできるとわかった。「平和の道具」となるために、神が何を求めているかを共に考え、「共に歩む」きっかけとなることを願い、聖フランシスコの「平和の祈り」で始め、聖書朗読と聖ヨハネ・パウロ二世の「広島アピール」の祈りで締めくくった。8/15 (土) 5大陸の宣教の祈り(合同)。聖母被昇天(日本語、英語、スペイン語)合同ミサ。8/17 (月) テゼの歌を使う「祈りの夜」に参加。教会外の方との交わりにもなり「主の平和」を祈る時になった。今後も参加を呼びかける。



《大阪南地区》

◆**布施教会** 8/9 (日) 上映会 (YouTube) 樋口季一郎陸軍中将【数千人以上のユダヤ人難民の命を救った日本の軍人】「軍国主義の日本で戦争の真ただ中に、ユダヤ人のために尽くされた樋口中将は、聖人だと思う」「自らの命を捧げる勇気に感動した」「勇気ある生き方、今の時代に一番欠けている」「戦争は絶対にしてはいけない」等の感想が寄せられた。その後の平和祈願ミサで、折り鶴2000羽と平和への思いの色紙を奉納。当たり前が当たり前ではない世の中に生き、「平和」であることに感謝。



◆**枚岡教会** 8/23 (日) 平和祈願ミサおとただけでなく子どもも参加できるようにとの思いで、七夕飾りという方法で企画し、多くの方に参加していただいた。子どもたちの元気な姿で、枚岡教会らしいミサだった。ベトナムの方のメッセージも多くあった。世界各地の紛争を懸念し、教会から少し距離を置いている信徒の方の参加もあり、嬉しく安心した。



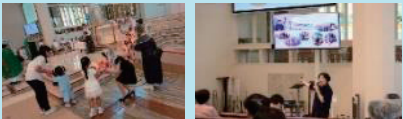
◆**金剛教会** 8/6~8/15 平和の道具となるためのメッセージを募集して教会ロビーに掲示し、8/16 (日) に奉納した。ベトナムの方をはじめ、ことばの壁があり、全員が参加できる行事企画が難しく、メッセージのみになった。



◆**八尾教会** 8/9 (日) 平和祈願ミサ後、平和の集いを実施。長崎で被爆体験をされた池松アヤ子さんの体験談をお聴きし、ヨハネ・パウロ二世の平和アピールを朗読。アニメ映画『アマイとサダコの祈り』を鑑賞。続いて、ガザの子どもたちの置かれている状況をドキュメントで鑑賞した。子どもたちに平和を遺すことを大切にしなければならぬという決意ができた平和旬間となった。



◆**玉造教会** 平和月間のモットー：戦争・災害・貧困の子どもたちに寄り添う
7/18 (土)「平和を願うパイプオルガンの響き」：イスラエル人オルガニスト(ヤクープ・ガザウィ氏)による演奏会後、戦禍のイスラエルとパレスチナの子どもたちの現状を話していただいた。カンパ活動を手伝い、両国の子どもたちの教育・交流支援に使っていただくよう、カンパ金を彼に託した。
8/2 (日) こどもミサ：合宿していた子どもたちの平和メッセージを寸劇で表現した。
8/9 (日) 平和の道具となるように、祈り・願いをカードに書いていただき花アートにして奉納。2週続けて「こども基金」協賛の募金を行ない、送金した。ビスカルド篤子さん(シナピス)の講演会：谷間に置かれた人々に心を寄せて！ 知ることから始まる支援があることに気づいた。



◆**なみはや教会** 8/2 (日) Sr. マリア・ラン(聖ビンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会)に「ベトナム戦争」、「ボートピープル」、「難民支援活動」をキーワードに、自らの体験を語っていただいた。ベトナム戦争とその後の混乱の中で体験した悲壮な出来事、そして死に直面する程の危険なボートピープルとしての体験、今も継続して取り組んでいる難民支援活動、生活困窮者支援についてもお話いただいた。会場のベトナム人、中国人、日本人のどなたの心にも響いたと思う。最後に「あなたの平和の」の合唱で講演会を終えた。



《岸和田地区》

◆**浜寺教会** 8/2 (日) テーマ：「平和ってどうやって崩れるんだろう？ どうしたら守れるんだろう？」内容：イラン難民の方から母国での弾圧や戦争についてお聞きし、平和について考える。(協力：社会活動センターシナピス) 拷問などイラクでの過酷な体験から日本に逃れて来られた方の話から、「知らなかった現実を知り、行動を考えるようになった」、「難民に対して優しい日本になってほしい」、「シナピスの活動と難民の置かれている状況が良くわかった」「一日も早く、難民申請が通りますように」等、難民に対する日本の対応等、私たちが向き合うべき課題についても学んだ。ビスカルド篤子さん(シナピス)の「黙っていることは中立ではなく、強い方に加担していることになる」という言葉も心に強く残っている。微力ながらできることから行動に移していきたいと決意した。



◆**熊取教会** 8/9 (日) シノドス以来、私たちの目指すべき教会の姿と教皇さまの平和への願いを信仰の歩みに据えて、祈りの意向を作成した。小さな教会で、全員参加を考え、祈りで心を合わせたいと外国人青年たちにも先唱を一連ずつ担っていただいた。緊張もあったが、何語であっても同じ流れの中で祈ることができるカトリックの信心を改めて素晴らしいと感じた。小さなことでも平和のために発信していく使命を感じた。今も続いている世界のあちこちの紛争に対して、平和をあきらめずに祈りたい。



◆**泉佐野教会** 8/9 (日) ミサの中の共同祈願として祈った。世界各地の情勢不安の国の様子を隣人からの言葉として受け取り、平和な状況に変わるように心をつにして祈った。
①パレスチナ ターメルさん(パレスチナ外務省研修生) ②メキシコ トーレス神父(岸和田教会) ③コンゴ民主共和国 ルシアン神学生(泉佐野教会) から各国の状況とメッセージをスライドで映しながら代読を聴き、メッセージごとに讃美歌「キリストの平和」を歌った。世界中で苦しんでいる多くの方のために何ができるのかを考える機会となった。



◆**紀泉ブロック合同(泉南・紀の川・岬教会)** 8/23 (日) 平和祈願ミサ(司式：イポリト神父) 平和とは戦争状態でないことではなく、日常の幸福やお互いへの敬意に根ざすもの。その証し人となれるようにと示され、大変励まされた。講演会(講師：ビスカルド篤子さん・シナピス) シナピスの具体的な支援活動の話から、「谷間に置かれた人々」について知り、無関心から関心に歩みを移したいと思った。「戦争は空気から始まる。気づくことが最大の防衛」という呼びかけが印象に残っている。茶話会の時に、シナピスのグッズ販売や熊本地震災害支援の「能登のかぼちゃ」販売に協力できたことで、シナピスの働きに触れることができてありがたかった。



《和歌山地区》

◆**和歌山紀北教会** 8/9 (日) 4聖堂合同で平和祈願ミサを実施。入堂の際には、代表者が平和の象徴としてオリーブの枝と折り鶴を手に行列に加わった。奉納では、各聖堂で記した平和への思いの寄せ書きを奉げた。ミサ後に、「平和の集い」を実施。ドラマ『シミュレーション』(NHK)を鑑賞し、分かち合いと祈りの時間を持った。最後に「あなたのへいわの」を全員で歌って終了した。戦争だけでなく、日常の中での争いや人を傷つける言葉にも目を向け、一人ひとりが平和を築くことの大切さを考えた。今大きく変わろうとしている日本を直視し、戦争を未然に防ぐ行動は今だ！ という思いで企画。武力ではなく対話によって問題を解決する世界になっていきますように。



◆**串本教会** 今年は「平和旬間」としての行事は実施できなかった。毎年8月15日には「聖母被昇天」ミサを実施していたのですが、今年になって2人の信徒が帰天し、12名だった信徒が10名になり、「初盆」のミサに変更した。



《香川地区》

◆御坊教会 8/15 (土)
聖母被昇天祭、平和祈願ミサを行った。
特に8月のこの時、
平和への強い想いを
祈念し、7名がミサに
与った。

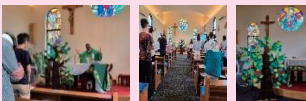


◆新宮教会 8/15 (土) 19時～
15名が平和祈願ミサに与った。
聖母被昇天のミサと合わせて、平和を祈願した。
スーパー AI を使った、まるでゲームのような戦争、異常気象により世界各地で発生する自然災害等、私たち人間の欲により引き起こされているものは驚く程多い。
我欲に抗い、自身の周りの小さなことから行うことができるよう、主の力添えを祈った。



◆番町教会 8/7 (金) 番町教会・桜町教会合同
会場：桜町教会 「平和を祈るコンサート」
「初金 小さなコンサート参加人数：30名
8月6日、9日は、広島・長崎の原爆の日にあたり、当時の小学生が書いた作文をもとに、朗読と祈りを参加者全員で捧げた。
小学生の作文は、当時の子どもたちの心情が表れていて、深く心に響いた。

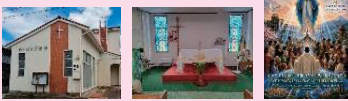
◆観音寺教会 8/9 (日) 平和祈願ミサの前に、平和を祈願して平和を願うメッセージを葉っぱに書いて木を完成させ、ミサの中で奉納した。
(ボーイスカウト・参加者一同)
世界中で戦争がなかなか止まず、災害も各地で起こっている。私たちにできることはつたなくても、祈りを通して神に願い、また、皆が「戦争は悪だ！」と強く気づいてくれますようにと願っている。
意識して平和を願ってのミサだったので、平和について色々考えることができ、日本が平和であることのありがた
さと感謝をささげ、有意義なミサだった。



◆丸亀教会 8/15 (土) 聖母の被昇天ミサと共に、終戦を思い、世界の平和を願った。ミサの中で一人の赤ちゃんが受洗された。このような子どもたちが育つ世界が平和であってほしいと祈った。ミサ後は、素麺パーティを開催し、楽しいひと時を過ごした。



◆伊予三島教会 8/9 (日) 平和祈願ミサ
・日本と全世界のために、戦争の犠牲者、とりわけ広島と長崎の原爆犠牲者のために
・亡くなった先祖のためにという内容で平和の祈りからミサが始まった。
8月中の毎日曜日、ミサ前に日本語、英語、ベトナム語で順にロザリオの祈りを捧げた。
小さな教会で家庭的な雰囲気の教会ですが、それぞれの国の習慣の違いやことばの壁があり、もどかしい時もある。心を合わせて平和のために祈ることで絆が深まり、身の周りから平和を考えるきっかけになった。



《愛媛地区》

◆今治教会 *8/9 (日) 平和祈願ミサ
平和を祈る折り鶴と「祈りのカード」を奉納
「私の被災前後の思い出」読み合わせ
「鐘を鳴らし、平和を願い祈る」 約70人
*8/15 (土) 祈りの鐘を鳴らす 聖母被昇天のミサ (約60人)、「空襲下のカトリック教会」読み合わせと座談会 (13人)
*7月～8月 折り鶴と「祈りのカード」作成
~~~~~  
・祈りを込めた折り鶴や「祈りのカード」を多くの方が作り、奉納できて良かった。  
・日本での戦中・戦後のいのちが奪われる悲惨な行為が、今も世界各地で続いていることを知って、心が痛む。  
・私たちの人間関係の中に戦争があること、精神的な平和がなくなり、人に対する無関心が大きな問題であると感じた。  
・戦争についての記憶を掘り起こし、分かち合い、自分のすべきことを考え、平和を祈る。



《高知地区》

◆江ノ口教会 8/9 (日) 平和祈願ミサ:25名  
平和を願う朗読・黙想会:15名  
広島・長崎で被爆体験をした子どもの詩の朗読を聴いて黙想した。「焼き場に立つ少年」の写真を撮影したアメリカ従軍カメラマンの言葉や子どもたちの詩の朗読と1分間の黙想を4回繰り返し、最後に教皇レオ14世の「平和を求める祈り」を唱えた。朗読に耳を傾け、皆が「ひとつ」になったように感じた。



◆中村教会 8/16 (日) 平和祈願ミサ  
平和についての分かち合いを行なった。



《徳島地区》

◆徳島教会 (合同) 8/12 (水)～13 (木)  
1日目:「阿波踊り」体験と交流会  
徳島の伝統芸能「阿波踊り」を体験し、参加者が交流した。阿波踊りの連には、外国人は「あらそわ連 (あらそわれん)」で、私たちも「にわか連」での踊りに参加した。  
2日目:「平和講演会」・「霊における会話での分かち合い」・「平和祈願ミサ」  
\*「平和講演会」講師:ホルヘ・ソーザ神父  
ニカラグアでの内戦の体験談や現政権下の教会弾圧についてのお話。  
\*「霊における会話」を用いて、5グループに分かれての分かち合い。  
\*「平和祈願ミサ」で、各グループでの分かち合いを共同祈願としてお捧げした。  
《計画にあたって大切にしたこと》  
聖フランシスコ年にあたり、参加者一人ひとりが「平和の道具」となれるように、まず「知ること」、「学ぶこと」、「対話から識別する」、「祈りとしてお捧げする」、「各々の場へと持ち帰り、実践する」



《参加者の思いや感想》

- ・初めて平和行事に参加して、貴重な機会を得られた。阿波踊り体験も貴重で、新鮮。平和講演会では、平和な暮らしができず、今も苦しい生活を送っているニカラグアの人々のために平和を求め神様に祈り続けることが大切だと思った。
- ・神父様の本当に伝えたいことは、「ゆるすこと」なのだと言われた。神が私たちをゆるしたのだから、私たちもすべてをゆるしてあげること。ゆるしは憎しみよりも強い！そして、人にとって祈りが一番の支えになる！不正を受けてもゆるすように！
- ・社会の中で起こっている国の争い、身近な差別、家庭の暴力、夫婦間の不和、子どもたちのいじめも一緒。相手を理解しようとしなことが原因。また、相手がどれくらい痛みや悩みを持っているのかを知らないから起こるのだという話に気づきをいただいた。
- ・ゆるすように！そして祈るように！祈りは慰めになり、神の力がそこに働くという気づきをいただいた。感謝！

来見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと～エマオへの道で◆特別編

日時 10/3(土)14:00～15:30  
おはなし 林 尚志神父 (イエズス会)

聖書ヘブライ語文法(初級)

講師 小脇光男先生 (熊本大学名誉教授)  
日時 10/2・16・30(金) 17:00～18:30

コレーン神父 聖書の集い ◆「A年の主日のみ言葉に生かされて」

日時 10/19・11/9・12/14(月)13:30～15:00

和田幹男神父◆聖書研究講座「新旧聖書の歴史・地理的背景を学ぶ」

テキスト『聖書年表・地図』(和田幹男著)

日時 10/14・11/11・12/9(水) 10:30～12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語「マルコ福音書を読む」

日時 10/5・10/19・11/2・11/16(月) 17:00～18:30

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日19:00～19:30

問 サクラ ファミリア ☎06-6225-8871  
✉f.sacra@ostk.catholic.jp

結婚準備講座

六甲教会

日時 次回2027年2/7(日)～2/28(日)14:00～16:00(4回)  
参加費 ¥5,000(2名)  
問 ☎078-851-2846  
✉renraku@rokko-catholic.jp  
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会  
日時 10/22(木)・10/30(金) 10:00～15:30  
指導 染野治雄神父(10/22) 山内十束神父(10/30)  
参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会

日時 10/16(金)17:00～10/17(土)15:30  
指導 染野治雄神父  
参加費 ¥9,000

◆新約聖書の世界への旅

日時 第1(月)19:00～  
指導 山内十束神父

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・第3(水)10:00～12:00  
指導 山内十束神父  
参加費 ¥1,000

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第1・第3(水)10:00～12:00  
指導 染野治雄神父  
参加費 ¥1,000

◆柱の黙想

日時 第2(木)10:00～12:00  
指導 山内十束神父  
参加費 ¥1,000

◆教会の教えと歴史

日時 第4(木)10:00～12:00  
指導 山内十束神父  
参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

高橋聡神父◆カテキズム黙想会

日時 10/22(木)13:30～15:30  
場所 サクラ ファミリア  
主催 信徒の奉献 アネモネの会  
問 高橋聡神父 ☎090-6329-5709

講座・研修会

管区部落差別人権活動センター シンポジウム◆「差別が冤罪を生む」

講師 徳田靖之さん(弁護士、菊池事件再審弁護団共同代表)・訓覇 浩さん(大谷大学・同朋大学非常勤講師、ハンセン病市民学会共同代表)

日時 10/17(土)13:30～16:30  
場所 サクラ ファミリア 3F 聖堂

主催・問 大阪高松教会管区部落差別人権活動センター ☎075-223-3340

✉bukatu@kyoto.catholic.jp

兵庫・生と死を考える会 10月月例会◆「スピリチュアルケアの学び」

講師 石野真輔さん(第二協立病院リハビリテーション科医師)

日時 10/18(日)13:30～15:00  
場所 カトリック六甲教会 イグナチオホール

参加費 会員 ¥1,000円 一般 ¥1,200 申込不要

主催・問 兵庫・生と死を考える会 ☎☎078-805-5306

✉hyogoseitoshi@outlook.com

講座◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金)10:00  
場所 神戸学生青年センター  
参加費 ¥1,000  
主催 神戸国際支縁機構  
問 岩村 ☎070-5045-7127

集い

第12回河内キリシタン祈念祭◆竹延真治神父講話・祈念ミサ・分かち合い

日時 10/3(土)10:00(受付9:30)  
場所 大東教会  
持ち物 弁当・飲み物  
主催・問 大東教会 ☎072-876-5434 中川・中田

コルス・チェチリア六甲(六甲グレゴリオ聖歌に親しむ会)10月例会◆待降節のグレゴリオ聖歌を歌いましょう。初めての方も歓迎。

指導 三浦優子(日本グレゴリオ聖歌学会会員)  
日時 10/26(月)10:00～12:00  
場所 六甲教会 イグナチオホール

会費 ¥500 (資料コピー代は実費)  
問 ✉yuko531miura@gmail.com (三浦) ☎090-9703-9054(清水)

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15～35歳までの若者の集い

日時 第2(土)19:00～21:00  
場所 大阪YCWセンター (またはZoom)

問 レネ神父・水元 ☎072-232-8063

✉osakaycw@gmail.com  
HPhttp://www.ycw.jp/

要約筆記グループ“エフファタ!”練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

日時 第2(日)19:00～21:00  
場所 オンライン・パソコン使用

問 障がい者委員会 ✉dis@ostk.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い  
いつ来てもウェルカム  
当日キャンセルOK  
日時 第3(日)14:00～16:00  
場所 姫里集会所  
参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)

申込 高橋まで

問 ☎070-8946-4472  
✉v\_p\_ikuchan@ybb.ne.jp

点訳ネット「レジナ」◆勉強会

対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時・場所 奇数月 第2(火)13:30～15:00 姫里集会所

偶数月 第2(水)13:30～15:30 北須磨教会

申込 笠松まで

問 ☎090-5661-4324 ☎072-722-0271

✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

聴覚障がい者ボランティア会◆聖書の手話表現の学び・教区活動の手話通訳者派遣

対象 手話に興味をお持ちの方 ※手話講習会ではありません

日時 第1・3・5(水)10:00～14:00  
場所 姫里集会所

問 障がい者委員会 ✉dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会

日時 第1(土)14:00  
問 高塚 ☎06-6921-0693

◆加古川教会

日時 第3(火)13:30～15:00  
問 森田 ☎079-426-5704

【お詫び】

8月号夏人事異動第2次誤【大阪南地区】Sr戸村晴美(なみはやB協力)正)(みなとB協力)お詫びし訂正いたします。(広報委員会)

行事等日程

| 10月  |                                                        |  |  | 24 土 | 教区典礼研修会                       |
|------|--------------------------------------------------------|--|--|------|-------------------------------|
| 1 木  | 臨時司教総会<br>〔常任司教委員会〕                                    |  |  | 28 水 | 10時半 司牧者集会                    |
|      |                                                        |  |  | 11月  |                               |
| 7 水  | ロザリオの聖母<br>大阪高松教区 守護聖人<br>10時半 顧問会・責任役員会<br>13時半 司祭評議会 |  |  | 1 日  | 諸聖人                           |
|      |                                                        |  |  | 2 月  | 死者の日                          |
|      |                                                        |  |  | 3 火  | 11時 教区納骨者および死者<br>祈念ミサ(カテドラル) |
| 18 日 | 世界宣教の日(献金)<br>INTERNATIONAL DAY                        |  |  | 5 木  | 〔常任司教委員会〕                     |
|      |                                                        |  |  | 7 土  | 管区司教と青年の集い(～8日迄)              |

案内・報告  
主日ミサ時間変更

案内・報告

【新宮教会】▽11時半  
【串本教会】▽9時  
※変更は10月第一日曜日(10月4日)枝の主日まで  
【青屋教会】▽11時～9時30分  
【御坊教会】▽9時(第1・第2・第5主日) 14時(第3・第4主日)

外国語ミサ変更

▽ベトナム語ミサ中止

10月司教予定

「行事等日程」以外

- ・10/4 姫路地区合同堅信式(†S)
- ・10/5～8 大分・鹿児島・那覇3教区合同司祭黙想会 in 那覇(†S)
- ・10/10～11 次期大司教選任に向けての教皇大使との集い(†M)(†S)
- ・10/11 尼崎ブロック合同堅信式(†S)
- ・10/16 ヴィンセンシオ会ミサ・講話(†M)
- ・10/18 INTERNATIONAL DAY(†M)  
(説教:さいたま教区 山野内司教)
- ・10/25 箕面教会堅信式(†M)  
†M＝前田万葉枢機卿  
†S＝酒井俊弘補佐司教

はばたき

「それでも、教会へ」  
皆さんは教会でいつも心穏やかに過ごしているでしょうか？  
私は、人との関わりに悩むことや、心が折れ、教会へ行くことさえ嫌になることがあります。そんな時、私は少し距離を置いてしまっています。  
それでも時間が経つと、また教会へ戻りたくなります。教会は、人との繋がりがただではなく、神さまに祈り、自分自身と向き合う場所でもあるからです。  
うまく祈れない日も、心が晴れない日もあります。それでも神さまのもとへ。  
焦らず、自分の歩みで進んでいきたいと思っています。  
(和歌山紀北教会 場野幸代)

大阪高松大司教区 青年つながりの集い

第1回

BRIDGE

～つながりのほじまり～

開催場所：カトリック徳島教会  
集合時間：11/21(土) 13:30  
解散時間：11/23(月・祝) 13:00  
対象年齢：18歳～35歳(高校生不可)  
募集人数：30名 参加費：6000円  
申込締切：10月25日(日)

BRIDGEとは…

大阪高松大司教区の青年が地域を越えて集い、信仰を分かち合いながら新しい仲間とのつながりを広げる企画です。  
同じ教区で歩む仲間と出会い、語り合い、これからのつながりを一緒に育んでみませんか？

お問い合わせ  
bridge.osakatakamatsu@gmail.com  
主催 大阪高松大司教区 青少年司教委員会  
青年つながりの集い 実行委員会

←QRコードからお申し込みください→